



**ソフトウェア開発
(研修ロードマップ)**

**2004.8
経済産業省**

目次

1. 研修コース群(体系図)-----	2頁
2. 研修コース一覧-----	5頁
3. 研修コースの内容-----	11頁

ソフトウェア開発(基本ソフト)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル				
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7		
テクノロジー	IT基本1	IT基本2	システム 開発基礎	要素技術基礎	最新技術動向			コミュニティ 活動		
メソドロジ				要素技術	要素技術上級		ソフトウェア開発プロセス基礎		製品アーキテクチャ	
				開発技術基礎	開発技術上級				品質保証と管理	
				プロジェクト マネジメント	プロジェクト マネジメント 基礎				ビジネス戦略/製品企画	
ビジネス/ インダストリ				最新ビジネス動向						
パーソナル	リーダーシップ基礎	ソフトウェア開発のリーダーシップ								
		コミュニケーション基礎	ソフトウェア開発のコミュニケーション							
		ネゴシエーション基礎	ソフトウェア開発のネゴシエーション							

: 職種共通
 : 専門分野別選択

ソフトウェア開発(ミドルソフト)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル		
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー	IT基本1	IT基本2	システム 開発基礎	要素技術基礎	最新技術動向			コミュニティ 活動
				要素技術	要素技術上級			
				開発技術基礎	開発技術上級			
メソドロジ	IT基本1	IT基本2	システム 開発基礎	ソフトウェア開発プロセス基礎		製品アーキテクチャ		コミュニティ 活動
						品質保証と管理		
プロジェクト マネジメント				プロジェクト マネジメント 基礎				
ビジネス/ インダストリ					ビジネス戦略/製品企画			
					最新ビジネス動向			
パーソナル			リーダーシップ基礎	ソフトウェア開発のリーダーシップ				
			コミュニケーション基礎	ソフトウェア開発のコミュニケーション				
			ネゴシエーション基礎	ソフトウェア開発のネゴシエーション				

: 職種共通
 : 専門分野別選択

ソフトウェア開発(応用ソフト)の研修コース群(体系図)

	未経験 レベル	エントリレベル		ミドルレベル		ハイレベル		
		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5	レベル6	レベル7
テクノロジー	IT基本1 IT基本2	システム開発基礎	要素技術基礎	最新技術動向		コミュニティ活動		
				要素技術上級				
			開発技術基礎	開発技術上級				
			業務パッケージ基礎					
メソドロジ			ソフトウェア開発プロセス基礎	製品アーキテクチャ				
				品質保証と管理				
プロジェクト マネジメント				プロジェクト マネジメント 基礎				
ビジネス/ インダストリ			インダストリ 業務知識の基礎	インダストリアプリケーション動向				
				ビジネス戦略/製品企画				
				最新ビジネス動向				
パーソナル		リーダーシップ基礎		ソフトウェア開発のリーダーシップ				
		コミュニケーション基礎		ソフトウェア開発のコミュニケーション				
		ネットワーキング基礎		ソフトウェア開発のネットワーキング				

: 職種共通
 : 専門分野別選択

ソフトウェア開発(基本ソフト)の研修コース一覧

コース群の種類		コース群	コース名	研修方法			期間		頁
				eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)	
職種共通	入門講座	IT基本1	IT入門				60		13
			パーソナルスキル入門				12	3	15
		IT基本2	ITエンジニアの基礎				36		18
			プログラミングの基礎				30	5	21
	基礎講座	システム開発基礎	アプリケーション開発の基礎				24		24
			データベースの基礎				12		27
			ネットワークの基礎				24		29
			セキュリティの基礎				18		31
		リーダーシップ基礎	リーダーシップ基礎				9	1	34
		コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎				9	1	37
		ネゴシエーション基礎	ネゴシエーション基礎				9	1	40
		開発技術基礎	国際標準 / 業界標準の概説				6		43
			プラットフォームの要素技術				18		45
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎				30		48
		ソフトウェア開発プロセス基礎	ソフトウェア開発プロセス基礎					3	53
			ソフトウェア製品開発方法論					5	56
		要素技術基礎	要素技術基礎				12		59
			グローバル化				6	1	61
			アクセシビリティ				6	1	63
			セキュリティの要素技術				18	3	65
ネットワークの要素技術					12		67		

ソフトウェア開発(基本ソフト)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)	
職種共通	上級講座	ビジネス戦略・製品企画	ソフトウェアビジネス計画				2	70
			ビジネスプロセス				2	72
		製品アーキテクチャ	製品アーキテクチャのケーススタディ				3	75
		品質保証と管理	品質マネジメント				2	78
			テスト計画 / 管理 / 評価				3	80
			問題分析演習				2	82
		開発技術上級	パフォーマンス計画 / 管理 / 評価				3	84
			インフォメーション開発				1	87
			人間中心設計				2	89
		ソフトウェア開発のリーダーシップ	ソフトウェア開発のリーダーシップ				3	92
	ソフトウェア開発のコミュニケーション	ソフトウェア開発のコミュニケーション				3	95	
	ソフトウェア開発のネゴシエーション	ソフトウェア開発のネゴシエーション				3	98	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向				1	105
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向			3	0.5	104
コミュニティ活動 / 標準化		コミュニティ活動 / 標準化活動	-	-	-	-	-	107
専門分野別選択	基礎講座	要素技術	基本ソフトの要素技術				5	110
			デバイスドライバ開発ワークショップ				5	112
	上級講座	要素技術上級	基本ソフトの要素技術上級				5	126

ソフトウェア開発(ミドルソフト)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類		コース群	コース名	研修方法			期間		頁
				eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)	
職種共通	入門講座	IT基本1	IT入門				60		13
			パーソナルスキル入門				12	3	15
		IT基本2	ITエンジニアの基礎				36		18
			プログラミングの基礎				30	5	21
	基礎講座	システム開発基礎	アプリケーション開発の基礎				24		24
			データベースの基礎				12		27
			ネットワークの基礎				24		29
			セキュリティの基礎				18		31
		リーダーシップ基礎	リーダーシップ基礎				9	1	34
		コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎				9	1	37
		ネゴシエーション基礎	ネゴシエーション基礎				9	1	40
		開発技術基礎	国際標準 / 業界標準の概説				6		43
			プラットフォームの要素技術				18		45
		プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎				30		48
		ソフトウェア開発プロセス基礎	ソフトウェア開発プロセス基礎					3	53
			ソフトウェア製品開発方法論					5	56
		要素技術基礎	要素技術基礎				12		59
			グローバル化				6	1	61
			アクセシビリティ				6	1	63
			セキュリティの要素技術				18	3	65
		ネットワークの要素技術				12		67	

ソフトウェア開発(ミドルソフト)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁	
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)		
職種共通	上級講座	ソフトウェアビジネス計画					2	70	
		ビジネス戦略・製品企画	ビジネスプロセス					2	72
		製品アーキテクチャ	製品アーキテクチャのケーススタディ					3	75
		品質保証と管理	品質マネジメント					2	78
			テスト計画 / 管理 / 評価					3	80
			問題分析演習					2	82
		開発技術上級	パフォーマンス計画 / 管理 / 評価					3	84
			インフォメーション開発	人間中心設計					1
		ソフトウェア開発のリーダーシップ	ソフトウェア開発のリーダーシップ					2	89
	ソフトウェア開発のコミュニケーション	ソフトウェア開発のコミュニケーション					3	92	
	ソフトウェア開発のネゴシエーション	ソフトウェア開発のネゴシエーション					3	95	
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向					3	98
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向				3	0.5	105
コミュニティ活動 / 標準化		コミュニティ活動 / 標準化活動	-	-	-	-	-	104	
専門分野別選択	基礎講座	要素技術	ミドルソフトの要素技術				5	107	
		上級講座	要素技術上級	ミドルソフトの要素技術上級				3	114
	セキュリティの設計上級					30	5	128	

ソフトウェア開発(応用ソフト)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁	
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)		
職種共通	入門講座	IT基本1	IT入門				60		13
			パーソナルスキル入門				12	3	15
	IT基本2	ITエンジニアの基礎					36		18
		プログラミングの基礎					30	5	21
	システム開発基礎	アプリケーション開発の基礎					24		24
		データベースの基礎					12		27
		ネットワークの基礎					24		29
		セキュリティの基礎					18		31
	リーダーシップ基礎	リーダーシップ基礎					9	1	34
	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎					9	1	37
	ネゴシエーション基礎	ネゴシエーション基礎					9	1	40
	開発技術基礎	国際標準 / 業界標準の概説					6		43
		プラットフォームの要素技術					18		45
	プロジェクトマネジメント基礎	プロジェクトマネジメント基礎					30		48
	ソフトウェア開発プロセス基礎	ソフトウェア開発プロセス基礎						3	53
		ソフトウェア製品開発方法論						5	56
	要素技術基礎	要素技術基礎					12		59
		グローバリゼーション					6	1	61
		アクセシビリティ					6	1	63
		セキュリティの要素技術					18	3	65
	ネットワークの要素技術					12		67	

ソフトウェア開発(応用ソフト)の研修コース一覧

ver.1.2

コース群の種類	コース群	コース名	研修方法			期間		頁	
			eラーニング	講義	ワークショップ	eラーニング (標準時間)	クラス (標準日数)		
職種共通	上級講座	ビジネス戦略・製品企画	ソフトウェアビジネス計画				2	70	
			ビジネスプロセス				2	72	
		製品アーキテクチャ	製品アーキテクチャのケーススタディ				3	75	
		品質保証と管理	品質マネジメント				2	78	
			テスト計画 / 管理 / 評価				3	80	
			問題分析演習				2	82	
		開発技術上級	パフォーマンス計画 / 管理 / 評価				3	84	
			インフォメーション開発				1	87	
			人間中心設計				2	89	
		ソフトウェア開発のリーダーシップ	ソフトウェア開発のリーダーシップ				3	92	
	ソフトウェア開発のコミュニケーション	ソフトウェア開発のコミュニケーション				3	95		
	ソフトウェア開発のネゴシエーション	ソフトウェア開発のネゴシエーション				3	98		
	特別講座	最新技術動向	最新技術動向				1	105	
		最新ビジネス動向	最新ビジネス動向			3	0.5	104	
コミュニティ活動 / 標準化		コミュニティ活動 / 標準化活動	-	-	-	-	-	107	
専門分野別選択	基礎講座	インダストリー業務知識の基礎	インダストリー業務知識の基礎				12	117	
		インダストリーアプリケーション動向	インダストリーアプリケーション動向				12	2	120
		業務パッケージ基礎	業務パッケージ基礎				18	3	123
	上級講座	要素技術上級	業務パッケージ製品別	-	-	-	-	-	130
			セキュリティの設計上級				30	5	132

ソフトウェア開発

研修コースの内容

<職種共通>

IT基本1 (2コース)

- IT入門
- パーソナルスキル入門

コース名	IT基本1：IT入門
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「IT基本1」コース群の一つとして、ITスキル標準で示す各職種へ就職する前提として必要となる基本的かつ普遍的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、テクノロジー、メソドロジー、プロジェクトマネジメント、ビジネス、インダストリにわたる広範な領域における基本的かつ普遍的な知識について学習する。</p> <p>当コースは、下記の「関連する知識」に示すテーマ単位に分割して提供することを推奨する。</p>
受講対象者	ITスキル標準で示す各職種への就職を目指す者(当面の間、本コースで示す内容を十分に学習しないまま就職したエントリレベル(レベル1)の者を含む)
受講前提	なし
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 60時間 (eラーニング 1日6時間×10日)
研修修了後の スキル修得目標	IT(情報技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下、開発チームメンバーとして、開発、運用、保守などのプロジェクトに参加することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - コンピュータ科学基礎 情報の基礎理論、データ構造とアルゴリズム - コンピュータシステム ハードウェア、基本ソフトウェア、システムの構成と方式、システム応用 - システムの開発環境 システム開発手法、言語、ツール、ソフトウェアパッケージの把握と活用 - ネットワーク技術の理解と活用 プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク関連法規、ネットワークセキュリティ、インターネット、通信機器、ネットワークソフト、ATM (Asynchronous Transfer Mode)、フレームリレーやLAN、WANなど回線に関する技術、TCP/IP - データベース技術 データベースのモデル、データベース言語、データベースの制御
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 標準化 開発と取引のプロセスの標準化、情報システム基盤の標準化、データの標準化、標準化組織の把握、活用 - 監査 システム監査の基礎、システム監査の計画、システム監査の実施と報告 - セキュリティとプライバシー セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウィルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、プライバシー保護、リスク管理、ガイドラインと関連法規
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> - 情報化と経営 情報戦略、企業会計、経営工学、エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野における情報システムの活用、関連法規の理解と遵守

コース名 研修コースの内容	IT基本1： パーソナルスキル入門
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「IT基本1」コース群の一つとして、ITスキル標準で示す各職種へ就職する前提として必要となるパーソナルスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、パーソナルの領域に関して、ITプロフェッショナルとして最も基本的な要件、すなわち、チームワークに基づくリーダーシップ、書く、話す、聞く、考えるの4つのコミュニケーション、プレゼンテーションの基本、論理展開(問題解決)法の基本、基本的なビジネスマナー、更にITサービスに関する各職種で求められるパーソナルスキルの概要などを学習する。</p> <p>コース前半は、パーソナルスキルに関する基本的知識をeラーニング形式で学習する。後半は、講義形式に加えて、提案活動などのロールプレイなどワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	ITスキル標準で示す各職種への就職を目指す者(当面の間、本コースで示す内容を十分に学習しないまま就職したエントリーレベル(レベル1)の者を含む)
受講前提	なし
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日6時間×2日)、標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	基本的なパーソナルスキルの知識を活用し、上位者の指導のソフトウェア製品開発チームメンバーとして、開発、運用、保守などのプロジェクトに参加することができる。

対象スキル項目	関連する知識
リーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> - リーダシップ リーダーシップの基本や原則の把握と実践、チームワークとコミュニケーションの実践、プロジェクト目標の設定、プロジェクトの推進、プロジェクトの実行、プロジェクト管理、チームメンバーの連携、チームメンバーの動機付けと達成感の提供
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション(2Way) 対話およびインタビューの実施、意思疎通、コミュニケーション手法の活用と実践、効果的な話し方、聞き方の実践 - コミュニケーション(情報伝達) プレゼンテーション技術の活用と実践、公式または非公式文書の作成、文書表現および表現力の活用と実践、メディア選択、説得技法の活用と実践 - コミュニケーション(情報処理) 状況対応能力の育成と実践、状況理解力の活用と実践、ミーティング運営技術の活用と実践
ネゴシエーション	<ul style="list-style-type: none"> - ネゴシエーション 交渉プロセスの把握と実践、効果的な交渉技法の活用と実践、信頼関係の確立、目標の設定、共通利益、論理的思考の実施、問題解決手法の活用と実践

IT基本2（2コース）

- ITエンジニアの基礎
- プログラミングの基礎

コース名	IT基本2: ITエンジニアの基礎
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「IT基本2」コース群の一つとして、情報システムに関して基本的、普遍的に必要とされる技術的知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、テクノロジー、メソドロジの領域に関して、コンピュータシステムの基本となる事項から、プラットフォーム、ネットワーク、データベースなどのテクノロジー、および外部設計、内部設計、プログラム設計、オブジェクト指向開発などのソフトウェアエンジニアリングについて学習する。</p>
受講対象者	ITスキル標準で示す各職種(セールスを除く)への就職を目指す者、本コースで示す内容を十分に学習しないまま就職したエントリレベル(レベル1)の者
受講前提	「IT基本1」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング(受講者のスキルレベルに応じて企業方針等を踏まえて、適宜、ワークショップを付加することを推奨する)
期間	標準時間 36時間(1日6時間 × 6日)、(付加したワークショップにかかる期間)
研修修了後のスキル修得目標	情報技術の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、開発、運用、保守などのプロジェクトに参加することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - システムプラットフォーム技術 オペレーティングシステム技術の活用と実践(メインフレーム、分散機(オフコン)、Unix、Windows、Linuxなど) - ネットワーク技術の理解と活用 プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク関連法規、ネットワークセキュリティ、通信機器、インターネット、ネットワークソフト、回線に関する技術(ATM(Asynchronous Transfer Mode)、フレームリレーやLAN、WANなど)、TCP/IP - インターネット技術 インターネットの歴史、Webに関する技術、メールに関する技術、暗号化技術、デジタルメディアに関する技術(VoIP、Streaming、QoS など) - コンピュータシステム ハードウェア、基本ソフトウェア、システムの構成と方式、システム応用 - コンピュータ科学基礎 情報の基礎理論、データ構造とアルゴリズム - データベース技術 データベースのモデル、データベース言語、データベースの制御 - プラットフォーム技術 ハードウェアアーキテクチャ、ストレージ管理、オペレーティングシステム、通信制御、トランザクション処理、分散処理、並列処理の把握と活用

対象スキル項目	関連する知識
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 設計手法 オブジェクト指向設計、構造化設計、データ中心型設計 - 開発手法 開発手法の選定、開発手法の活用と実践、ウォーターフォール型、RAD (Rapid Application Development) 型、スパイラル型、業務パッケージ固有の開発手法 - 開発支援ツール 開発環境、各種アプリケーション開発ツール、構成管理ツール、デバッガ、シミュレータ等 - プログラミング技術 各種プログラミング言語技術の活用と実践 - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用 - 再利用手法 ソフトウェア部品の利用、先行プロジェクトの成果物利用、再利用手法の活用と実践 - セキュリティとプライバシー セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウィルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、プライバシー保護、リスク管理、ガイドラインと関連法規 - セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品、ツールの選定、導入、セキュリティ機能の開発、セキュリティ技術の実装 - 外部設計 外部設計の手順、システム機能設計、データモデルの設計、外部設計書の作成 - 内部設計 機能設計、インターフェイス設計、内部データ設計、サブコンポーネントの識別、役割定義、サブコンポーネント間の関係定義、内部設計書の作成 - オブジェクト指向開発 オブジェクト指向の基本概念、UML、オブジェクト指向開発プロセス、分析、設計、実装、主なオブジェクト指向技術

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	IT基本2：プログラミングの基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「IT基本2」コース群の一つとして、情報システムの開発に使用されている主要なプログラミング言語に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>コース前半は、プログラミングを行うために必要となるプログラミング言語の文法やアルゴリズム、デバッグの仕方などを学習する。後半は、主要なプログラミング言語による簡単なプログラム作成の実習を行う。また、プログラム作成においてグラフィックユーザインターフェースを多く取り入れた開発環境での実習を行う。</p> <p>コース前半のプログラミングの基礎学習をeラーニング形式で行う際には、その教材にプログラミングを行うことができる環境が構築されていることが望ましい。</p> <p>当コースでは、プログラムを記述できるようになることに主眼をおいているため、アプリケーションの要件定義や設計手法などの内容については、別途、より詳しく学習する必要がある。</p>
受講対象者	ITスキル標準で示す各職種(セールスを除く)への就職を目指す者、本コースで示す内容を十分に学習しないまま就職したエントリレベル(レベル1)の者
受講前提	「IT基本1」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、講義、ワークショップ
期間	標準時間 30時間 (eラーニング 1日 6時間×5日間)、標準日数 5日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	言語に関する基本的な知識を活用し、上位者の指導の下、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、プログラムを作成することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> - 技術要件分析 現行IT環境分析、新規技術要件の把握、ニーズの分析と優先順位付け
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - プログラミング言語、マークアップランゲージ C、C++、COBOL、Java、UML、HTML、XML などの各種言語、表記法の特徴、グラフィカルな開発環境の使用法
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> - 開発環境設計 開発環境要件の定義、プラットフォーム選定
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - プログラム設計 開発手法とプラットフォームの選定、プログラム設計基準、プログラム設計書の作成、テスト計画と仕様の作成 - 開発手法 開発手法の選定、開発手法の活用、実践、ウォーターフォール、RAD (Rapid Application Development)、スパイラル、業務パッケージ固有の開発手法など - 開発支援ツール 開発環境、各種アプリケーション開発ツール、構成管理ツール、デバッガ、シミュレータ等 - プログラミング技術 各種プログラミング言語技術の活用と実践 - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用 - 再利用手法 ソフトウェア部品の利用、先行プロジェクトの成果物利用、再利用手法の活用と実践 - デバッグ技法 デバッグツールの活用と実践 - オブジェクト指向開発 オブジェクト指向の基本概念、UML、オブジェクト指向開発プロセス、分析、設計、実装、主なオブジェクト指向技術

システム開発基礎（4コース）

- アプリケーション開発の基礎
- データベースの基礎
- ネットワークの基礎
- セキュリティの基礎

コース名	システム開発基礎：アプリケーション開発の基礎
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の一つとして、アプリケーション開発に関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、アプリケーション開発における要件分析手法、設計手法、開発手法、技術および関連知識、マネジメント手法などを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、ソフトウェア開発のレベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 24時間 (eラーニング 1日 6時間×4日間)
研修修了後のスキル修得目標	アプリケーション開発に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、アプリケーションの設計、構築、導入の一連の局面を、作業手順書などに基づいて実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> - ユーザとのリレーション確立 - 業務要件分析 ユーザニーズの把握、ニーズの分析と優先順位付け - 技術要件分析 現行IT環境分析、新規技術要件の把握、ニーズの分析と優先順位付け
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - システムプラットフォーム技術 オペレーティングシステム技術の活用と実践(メインフレーム、分散機(オフコン)、UNIX、WINDOWS、Linuxなど) - コンピュータシステム ハードウェア、基本ソフトウェア、システムの構成と方式、システム応用 - データベース技術 データベースのモデル、データベース言語、データベースの制御 - データベース設計 データベース論理設計、データベース物理設計 - ミドルウェア技術 Web、CGIの仕組み、JSP、EJBの把握、活用 - アプリケーションセキュリティ アプリケーションセキュリティ機能の設計、開発、導入
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> - 要件定義 ユーザ要求、プロジェクト範囲、目的の明確化、案件の優先順位付けと関連部門の調整、要件調査の実施、要件の定義と文書化、資源要求の調査、システム化計画の策定 - データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 データベース、ミドルウェア、分散コンピューティングの選定、機能と制約事項の理解、設計

対象スキル項目	関連する知識
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 開発手法 開発手法の選定、開発手法の活用と実践、ウォーターフォール型、RAD (Rapid Application Development) 型、スパイラル型、業務パッケージ固有の開発手法 - プログラミング技術 各種プログラミング言語技術の活用と実践 - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用 - 再利用手法 ソフトウェア部品の利用、先行プロジェクトの成果物利用、再利用手法の活用と実践 - オブジェクト指向開発 オブジェクト指向の基本概念、UML、オブジェクト指向開発プロセス、分析、設計、実装、主なオブジェクト指向技術 - プログラム設計 開発手法とプラットフォームの選定、プログラム設計基準、プログラム設計書の作成、テスト計画と仕様の作成 - デバッグ技法 デバッグツールの活用と実践
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソッドの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析

コース名 研修コースの内容	システム開発基礎: データベースの基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の一つとして、データベースに関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、データベースのモデル(3層スキーマ、概念データモデル、論理データモデル)、データ分析(正規化、ERD、データモデリング)、データベース言語、データベース管理システム(DBMS)の機能と特徴、データベースの制御機能、分散データベース等のデータベース技術、関係データベース管理システム(RDBMS)の基本機能などを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、ソフトウェア開発のレベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング: 1日 6時間×2日間)
研修修了後の スキル修得目標	データベース構築に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指示の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、データベースの設計、構築、導入の一連の局面を、作業手順書などに基づいて実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - データベース技術 データベースのモデル、データベース言語、データベースの制御 - データベース設計 データベース論理設計、データベース物理設計 - 関係データベース管理システムの基本機能 関係データベースシステムの基本構造、システムカタログの保持機能、関係データの取り出し、格納実行機能、データベース利用要求の解釈機能、データベース利用の記録機能、データベースバックアップリカバリ機能、インテグリティ確保機能 - トランザクション処理とデータベースの同期点の関係 - データモデリング データモデリング技法の活用と実践、データモデリングツールの選択と活用 - データベース運用設計 パフォーマンス設計、障害対策

コース名	システム開発基礎: ネットワークの基礎
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の一つとして、ネットワークに関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、情報システム開発全体の観点から見たネットワークの位置づけと役割やネットワークと他の構成要素との関係、OSI7層モデル、TCP/IPプロトコルを用いたネットワークの構築や、インターネット、イントラネットの技術的な仕組みなどを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、(ソフトウェア開発のレベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 24時間 (eラーニング: 1日 6時間 × 4日間)
研修修了後のスキル修得目標	ネットワークの構築に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指示の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ネットワークの設計、構築、導入の一連の局面を、作業手順書などに基づいて実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none">- システムプラットフォーム技術 オペレーティングシステム技術の活用と実践(メインフレーム、分散機(オフコン)、UNIX、WINDOWS、Linuxなど)- ネットワーク技術の理解と活用 プロトコルと伝送制御、符号化と伝送、ネットワーク関連法規、ネットワークセキュリティ、通信機器、インターネット、ネットワークソフト、回線に関する技術(ATM (Asynchronous Transfer Mode)、フレームリレーやLAN、WANなど)、TCP/IP- インターネット技術 インターネットの歴史、Webに関する技術、メールに関する技術、暗号化技術、デジタルメディアに関する技術(VoIP、Streaming、QoSなど)

コース名	システム開発基礎:セキュリティの基礎
研修コースの内容	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の一つとして、セキュリティに関する基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、情報セキュリティの重要性、情報システムに対する脅威や脆弱性、その影響度など、情報セキュリティに対する基本的な考え方とともに、情報を危険にさらすリスクに対する基礎的な対処法について学習する。またプライバシーの課題についてもその脅威、重要性、プライバシー侵害等の事件を起こした場合の影響などを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、ソフトウェア開発レベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 18時間 (eラーニング 1日 6時間×3日間)
研修修了後のスキル修得目標	<p>情報に対するセキュリティやプライバシーに関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、設計、構築、導入の一連の局面において、セキュリティやプライバシーの観点から見て課題を持つ可能性のある事象を判別し、簡単なものについては対処することができる。</p>

対象スキル項目	関連する知識
業務分析	<ul style="list-style-type: none"> - システム価値の検証 IT価値の定義、IT価値管理のフレームワーク構築 - インダストリ知識 インダストリ共通アプリケーションに関する知識の活用、インダストリ固有アプリケーションに関する知識の活用、インダストリビジネス動向、技術動向、競争状況の把握、インダストリ用語、関連法規の把握と活用、インダストリ別事業環境の把握と活用、インダストリ別ビジネス慣行の把握と活用、インダストリ固有業務内容の把握と活用 - 情報化と経営 情報戦略、企業会計、経営工学、エンジニアリングシステム分野とビジネスシステム分野における情報システムの活用、関連法規の理解と遵守
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - セキュリティとプライバシー セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウイルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、プライバシー保護、リスク管理、ガイドラインと関連法規 - セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品、ツールの選定、導入、セキュリティシステムの開発、セキュリティ技術の実装 - 監査 システム監査の基礎、システム監査の計画、システム監査の実施と報告
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施

リーダーシップ基礎 (1コース)

- リーダーシップ基礎

コース名	リーダーシップ基礎
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、あらゆるプロジェクトの成功要因である目標の設定、チーム形成、コミュニケーション、プロジェクト実施項目の作成と推進、動機づけなどリーダーシップに関する基礎的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、小規模プロジェクトを推進していく上で必要なリーダーシップ、自身に対する動機づけ、チーム形成を通じたチームメンバーに対する動機づけ、対人スキル、確執の管理と合意形成について、学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、ソフトウェア開発のレベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、または講義
期間	標準時間 9時間(eラーニング:1日 6時間×1.5日) または標準日数 1日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	リーダーシップに関する基本的な知識を活用し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、リーダーシップを発揮して業務を遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
リーダシップ	- リーダシップ リーダシップの基本や原則の把握と実践、チームワークとコミュニケーションの実践、プロジェクト目標の設定、プロジェクトの推進、プロジェクトの実行、プロジェクト管理、チームメンバの連携、チームメンバの動機付けと達成感の提供

コミュニケーション基礎 (1コース)

- コミュニケーション基礎

コース名	コミュニケーション基礎
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、あらゆるプロジェクトの成功要因である利害関係者との効果的、効率的なコミュニケーションに関する基礎的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、小規模プロジェクトを推進していく上で必要な2Wayコミュニケーション、情報の伝達、情報の処理について、学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、ソフトウェア開発のレベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、または講義
期間	標準時間 9時間(eラーニング:1日 6時間×1.5日) または標準日数 1日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	コミュニケーションに関する基本的な知識を活用し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、プロジェクト関係者との効果的なコミュニケーションを図り、業務を遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション(2Way) 対話およびインタビューの実施、意思疎通、コミュニケーション手法の活用と実践、効果的な話し方、聞き方の実践 - コミュニケーション(情報伝達) プレゼンテーション技術の活用と実践、公式または非公式文書の作成、文書表現および表現力の活用と実践、メディア選択、説得技法の活用と実践 - コミュニケーション(情報処理) 状況対応能力の育成と実践、状況理解力の活用と実践、ミーティング運営技術の活用と実践

ネゴシエーション基礎 (1コース)

- ネゴシエーション基礎

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	ネゴシエーション基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、業務上のあらゆる状況、場面におけるネゴシエーションに関する基礎的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、小規模プロジェクトを推進していく上で発生するあらゆる状況、場面における利害関係者とのネゴシエーションに関して、ネゴシエーションのプロセスを複数のフェーズに分け、想定される問題点を理解し、交渉相手との解決策を作成するプロセスについて、学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、ソフトウェア開発プロジェクトに参加した経験を持つ者、ソフトウェア開発レベル2を目指す者)
受講前提	「IT基本1」、「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、または講義
期間	標準時間 9時間(eラーニング:1日 6時間×1.5日) または標準日数 1日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	ネゴシエーションに関する基本的な知識を活用し、上位者の指導の下、他のチームメンバーや顧客との効果的なビジネス交渉を行うことができる。

対象スキル項目	関連する知識
ネゴシエーション	- ネゴシエーション 交渉プロセスの把握と実践、効果的な交渉技法の活用と実践、信頼関係の確立、目標の設定、共通利益、論理的思考の実施、問題解決手法の活用と実践

開発技術基礎（2コース）

- 国際標準 / 業界標準の概説
- プラットフォーム技術

コース名 研修コースの内容	開発技術基礎：国際標準 / 業界標準の概説
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品の設計と開発で一般的に利用される標準についての知識を修得する。</p> <p>当コースでは多くのソフトウェア開発において必要となる、国際標準や業界標準などの標準の現状と各種標準の利用方法、製品との係わり合いについての基礎知識を身に付ける。</p> <p>世の中に数多く存在する標準のうち主要な各種標準の位置付け、関連する標準化団体と活動の現状、標準に関わる情報をどこに求めるかなどについての知識の修得を目的とする。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験がある者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 6時間(eラーニング:1日 6時間×1日)
研修修了後の スキル修得目標	標準に関する知識を活用し、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するソフトウェア製品に関連する標準の理解と適用が出来る事。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術 - 関連法規に関する知識 関連法規の理解と遵守 - グローバリゼーション 標準やアーキテクチャ(Unicode、POSIX 定義の国際化モデル、Character Data Representation Architecture など)、国際化(言語や文化に依存しない共通化された設計と実装)、地域化(言語や文化に依存する部分の設計と実装)
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - 適合すべき標準の選定 国際標準、業界標準、デファクトスタンダード、社内標準
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - セキュリティとプライバシー セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウィルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、プライバシー保護、リスク管理、ガイドラインと関連法規

コース名	開発技術基礎：プラットフォームの要素技術
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、プラットフォームの構成要素となる製品の性能を決めるアーキテクチャと製品に実装された要素技術に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、代表的なハードウェア製品とシステムソフトウェア製品、ミドルウェアに実装された要素技術についての最新の技術動向などを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 18時間 (eラーニング:1日 6時間×3日間)
研修修了後のスキル修得目標	設計に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指導の下、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するシステム設計の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none">- コンピュータシステムアーキテクチャおよび基盤技術の理解と活用- オペレーティングシステムの基礎 メインフレーム OS、オフコン OS、UNIX、WINDOWS、Linux、組み込み機器 OS

プロジェクトマネジメント基礎（1コース）

- プロジェクトマネジメント基礎

コース名 研修コースの内容	プロジェクトマネジメント基礎：プロジェクトマネジメント基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、「PMBOK」に準じて、プロジェクトの定義、組織化、計画策定、スケジュール策定、プロジェクト実施と管理、プロジェクト完了等、プロジェクトマネジメント全局面の知識領域について基礎的な内容を網羅しており、業種や分野別の特性にとらわれない汎用的なプロジェクトマネジメントの概念を学習する。</p>
受講対象者	システム開発などのプロジェクトに参加した経験を持ち、ソフト製品開発チームリーダーを目指している者(ソフトウェア開発レベル4を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、複数のシステム開発などのプロジェクトに参加した経験を有すること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 30時間 (1日6時間×5日)
研修修了後の スキル修得目標	プロジェクトマネジメントに関する基礎的な知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チームリーダーとして、プロジェクト計画に基づいて、プロジェクトを実行できる。

対象スキル項目	関連する知識
統合マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト計画の策定 プロジェクト計画メソドロジの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクト計画書の策定 - プロジェクト計画の実施 一般的な管理スキルの活用と実践、プロジェクトマネジメントツールの活用、承認プロセスの把握、進捗管理会議運営、組織の手続きの把握 - 統合変更管理 変更管理、構成管理、プロジェクト進捗評価基準の活用と実践、プロジェクト計画書更新版の策定
スコープマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト開始 プロジェクト憲章の策定、プロジェクトマネジャの選定と任命、制約条件と前提条件の把握 - スコープ計画 スコープ記述書の策定、スコープマネジメント計画書の策定 - スコープ定義 WBSの作成、スコープ記述書更新版の策定 - スコープ検証 - スコープ変更管理 スコープ変更、ベースライン文書の改訂
タイムマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 作業定義 作業の細分化と詳細化、作業項目リストの作成、WBS更新版の作成 - 作業順序設定 PDM(Precedence diagramming method)、ADM(Arrow diagramming method)、Conditional diagramming method、プロジェクトネットワーク図の作成、作業項目リストの作成 - 作業所要時間見積 所要時間見積、作業項目リストの作成 - スケジュール開発と管理 数学的分析(Critical Path Method、PERT等)、所要時間の短縮、シミュレーションの実施、プロジェクトマネジメントツールの活用、プロジェクトスケジュールの作成、スケジュールマネジメント計画書の作成、スケジュール変更管理

対象スキル項目	関連する知識
コストマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 資源計画 資源計画の検討と策定、代替案の定義 - コスト積算 トップダウンコスト見積の実施、ボトムアップコスト見積の実施、見積ツールの活用と実践、コスト見積方法論の活用と実践 - 予算設定 予算設定ツールと技術の活用と実践、コストベースラインの作成 - コストコントロール コスト変更管理の実施、進捗状況評価基準の把握と実践、EVM(Earned value management)の活用と実践、コストコントロールツールの活用と実践
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質コントロール 監査、コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、フローチャートの活用と実践、傾向分析
組織マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクト組織計画 人材業務の実践、組織論の実践 - 要員調達 要員計画の策定、採用業務の実施、ネゴシエーション、調達 - チーム体制化 チーム構成作業の実施、一般的な管理業務の実施、適材配置の実践、チーム育成

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーションマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション計画 コミュニケーション要件の把握、コミュニケーション技術の活用と実践 - 情報配布 コミュニケーションスキルの活用と実践、情報配布方法論の活用と実践 - 実績報告 進捗検証、予実分析、傾向分析、Earned Value 分析 - プロジェクト完了手続 プロジェクト実績報告、プロジェクト報告書の作成、プロジェクトプレゼンテーションの実施
リスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - リスクマネジメント計画策定 - リスク識別 資料分析、情報収集技術(ブレインストーミング、インタビュー、SWOT 分析)の活用と実践、仮説分析、ダイアログ技術の活用と実践 - 定性的リスク分析 リスク発生頻度と損害の大きさによる分析、リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析 - 定量的リスク分析 情報収集技術(インタビュー)の活用と実践、重大性分析、デシジョンツリ分析、シミュレーションの実施 - リスク対応計画 許容、回避、移転、軽減、受容 - リスク監視とリスクコントロール プロジェクトリスク対応監査、定期的なプロジェクトリスク検証、Earned Value分析
調達マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 調達計画 内製外製の分析、契約形態の選択、調達計画書の作成 - 引合計画と引合 調達文書の作成、評価基準の設定、プロポーザルの受理 - 発注先選定 - 契約管理 契約業務の理解、契約条件の確認と合意、契約の締結、例外事項の処理、外注、OEM 契約業務の理解、関連法規の理解と遵守

ソフトウェア開発プロセス基礎 (2コース)

- ソフトウェア開発プロセス基礎
- ソフトウェア製品開発方法論

コース名 研修コースの内容	ソフトウェア開発プロセス基礎：ソフトウェア開発プロセス基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品の開発者として必要となる基本プロセスおよび開発とテストの工程で用いられる各種の手法について基礎的な知識の修得を目的とする。</p> <p>開発標準や開発ガイド、品質管理、工程管理の基礎に加えて情報資産の機密情報の取扱いルール、変更管理、問題管理の手続きについて学習する。</p> <p>要求仕様書、設計仕様書、テスト実施計画書、などの準備すべき文書の概要と役割を学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発プロセスのレベル3、4を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」および「プロジェクトマネジメント基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 3日間（クラスルーム）
研修修了後の スキル修得目標	ソフトウェアの開発プロセスに関する基礎的な知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはチームメンバーとして、担当するシステム開発の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - グローバリゼーション 地域または国毎の関連法規や規定規格への対応、マルチ言語対応、標準やアーキテクチャ(Unicode、POSIX 定義の国際化モデル、Character Data Representation Architecture など)、国際化(言語や文化に依存しない共通化された設計と実装)、地域化(言語や文化に依存する部分の設計と実装) - アクセシビリティ(ソフトウェア開発) 各種システムのアクセシビリティ機能、各国毎のガイドラインおよび規制 - 関連法規に関する知識 関連法規の理解と遵守 - 知的財産権 - 人間中心設計
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - 適合すべき標準の選定 国際標準、業界標準、デファクトスタンダード、社内標準 - 見積もり、スケジュール手法 規模の見積もり(LOC/Function Point/COCOMO など)、スケジュール最適化(クリティカルパス、PERT、ガントチャート など) - ソフトウェア開発プロセス ビジネスプロセス(IPDなど)における位置づけ、開発計画書の作成(サブプロセス、メジャメント、要員配置、ツール、成果物 など)、ソフトウェア開発に関連する規格およびモデル(ISO9000、CMMI など) - 品質検査(ソフトウェア開発) デザインレビュー、コードレビュー、機能テスト、統合テスト、パフォーマンステスト、耐久性テスト、ユーザビリティテスト - テスト実施計画書の作成
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用 - 技術検証手法の活用と実践 プロトタイピング、シミュレーション、モデリング - ソフトウェア設計(ソフトウェア開発) 最適メソッド選択と活用、適用ガイダンスの作成、コーディング標準などの標準化の実施、再利用ソフトウェア部品の選定、技術検証すべきテクノロジーの識別 - インフォメーション開発 製品情報の設計、開発 - プロダクトセキュリティ 情報資産の機密情報の取り扱いルール、開発環境および製品のウィルス対策など、セキュリティ計画書の作成

対象スキル項目	関連する知識
品質マネジメント	- 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践

コース名	ソフトウェア開発プロセス基礎：ソフトウェア製品開発方法論
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発のプロジェクトマネジメントに必要となる、ソフトウェア製品開発の方法論に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、IPD(Integrated Product Development)方法論の管理プロセス、ツール、技法、知的資産、特許、ソフトウェア製品関連知識等に関する内容を網羅しており、ソフトウェア製品開発の計画、要件定義、設計、開発、テスト、出荷、販売、保守、販売終了、保守の終了等、一連のライフサイクル局面における適用方法を学習する。</p> <p>当コースは、IPD手法によるプロジェクトマネジメント理論を講義形式で学習することに加え、適用方法、適用事例を中心にワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品設計、開発に関するプロジェクトメンバとして、複数回のソフトウェア製品開発プロジェクトに参画した経験を持つ者(ソフトウェア開発メントのレベル3、4を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」、「プロジェクトマネジメント基礎」を修了していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日間 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェア製品開発方法論を活用し、新規ソフトウェア、既存ソフトウェアの設計、開発管理をリードして、ソフトウェア製品開発チームリーダーとして、成功裡にプロジェクトを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 企画、計画の策定 顧客要求仕様の理解、ソフトウェア製品企画の策定、ソフトウェア製品企画の提案、ソフトウェア製品開発計画の策定、ソフトウェア製品の投資、損益モデルの理解 - グローバリゼーション 地域または国毎の関連法規や規定規格への対応、マルチ言語対応、標準やアーキテクチャ(Unicode、POSIX 定義の国際化モデル、Character Data Representation Architecture など)、国際化(言語や文化に依存しない共通化された設計と実装)、地域化(言語や文化に依存する部分の設計と実装)
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - ソフトウェア開発プロセス ビジネスプロセス(IPDなど)における位置づけ、開発計画書の作成(サブプロセス、マネジメント、要員配置、ツール、成果物 など)、ソフトウェア開発に関連する規格およびモデル(ISO9000、CMMI など)

要素技術基礎（5コース）

- 要素技術基礎
- グローバリゼーション
- アクセシビリティ
- セキュリティの要素技術
- インターネット要素技術

コース名 研修コースの内容	要素技術基礎： 要素技術基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の後続コースとして、日々変化していくハードウェア、ソフトウェアなどの各製品に関する知識を最新に保つために、ハードウェア、ソフトウェアに関する要素技術のほか、情報システムに活用されている様々な製品に用いられている技術、考え方などに関する基礎的知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、分野別、またはテーマ別に設けられ、現在多くのハードウェアで用いられている要素技術や、様々な情報システムで用いられているソフトウェアの考え方、原理、仕組み、構成、メリット、デメリット、使用法や設計、構築、運用面における特徴など今後業務を遂行する上で必要とされる製品知識を、定期的または必要に応じて選択し学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発レベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日間)
研修修了後の スキル修得目標	情報技術や基盤となるソフトウェア製品の目的、特徴などを把握し、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、必要に応じ有用性などを説明でき、また開発に活かすことができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	- 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握

コース名 研修コースの内容	要素技術基礎： グローバリゼーション
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品開発のプロセスの中でグローバル化への対応上必要となる技術(プログラムの構成、コードページ、ロケール、関数など)の基礎について学習する。</p> <p>そのソフトウェア製品が、世界各国のお客様のニーズに応えられるようにするために、開発プロセス、社内・社外の標準やアーキテクチャー、およびガイドラインなどを理解する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	eラーニングまたは講義
期間	標準時間 6時間 (eラーニング 1日6時間×1日間)または標準日数 1日間 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	グローバリゼーションに関する知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するソフトウェア製品開発プロジェクトでグローバル化への対応を実施する事ができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術 - グローバリゼーション 標準やアーキテクチャ(Unicode、POSIX 定義の国際化モデル、Character Data Representation Architecture など)、国際化(言語や文化に依存しない共通化された設計と実装)、地域化(言語や文化に依存する部分の設計と実装)
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - インフォメーションデベロップメント 製品情報の設計、開発

<div style="text-align: right;">コース名</div> <div style="text-align: left;">研修コースの内容</div>	要素技術基礎：アクセシビリティ
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品のアクセシビリティ対応についての背景と遵守すべき法規と必要となる技術についての知識を修得する。</p> <p>各国ごとの異なる法的な規制の違いや特徴、現状についても解説する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	eラーニングまたは講義
期間	標準時間 6時間 (eラーニング 1日6時間×1日間)または標準日数 1日間(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	システムの設計に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するシステム設計の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	- 人間中心設計 - アクセシビリティ(ソフトウェア開発) 各種システムのアクセシビリティ機能 各国毎のガイドラインおよび規制

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	要素技術基礎：セキュリティの要素技術
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の後続となる「要素技術基礎」コース群の一つとして、セキュリティ機能を実現する要素技術に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、セキュリティに関する技術、考え方を理解し、技術動向、代表的な製品などを学習する。</p> <p>当コースは、eラーニング形式による提供も可能であるが、講義形式によって各製品の実演などを行うことが望ましい。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義、またはeラーニング
期間	標準日数 3日(クラスルーム)、または標準時間 18時間 (eラーニング:1日 6時間×3日間)
研修修了後のスキル修得目標	システムの設計に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、又は既存の作業標準やガイダンスに従い、担当するシステム設計の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> -インターネット技術 インターネットの歴史、Webに関する技術、メールに関する技術、暗号化技術、デジタルメディアに関する技術(VoIP、Streaming、QoS など) - Webアプリケーション技術 HTML、サーブレット、EJB、J2EE、JSP、JSF、XML、XMLを基盤とした各種マークアップランゲージ、Webサービス(SOA、SOAP、WSDL、UDDI、WS - Security 等)
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品、ツールの選定、導入、セキュリティシステムの開発、セキュリティ技術の実装 -セキュリティとプライバシー セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウイルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、プライバシー保護、リスク管理、ガイドラインと関連法規

コース名 研修コースの内容	要素技術基礎： ネットワークの要素技術
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の後続となる「要素技術」コース群の一つとして、ネットワークシステムにおける要素技術に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、ネットワークシステムの重要な技術と周辺技術、代表的な製品とサービスに関する知識、ネットワークの技術動向などを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 6時間×2日間)
研修修了後の スキル修得目標	システムの設計に関する基礎的な知識を駆使し、上位者の指導の下ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するシステム設計の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - インターネット・アプリケーション基盤技術 アプリケーションサーバ・システムの基本構成、アプリケーションサーバ・システムの基本要素(スループット、耐攻撃性、無停止運転、拡張性など) - インターネット技術 インターネットの歴史、Webに関する技術、メールに関する技術、暗号化技術、デジタルメディアに関する技術(VoIP、Streaming、QoSなど) - Webアプリケーション技術 HTML、サーブレット、EJB、J2EE、JSP、JSF、XML、XMLを基盤とした各種マークアップランゲージ、Webサービス(SOA、SOAP、WSDL、UDDI、WS - Security 等) - ミドルウェア技術 Web、CGIの仕組み、JSP、EJBの把握、活用
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術

ビジネス戦略 / 製品企画 (3コース)

- ソフトウェアビジネス計画
- マーケットマネジメントの基礎
- ビジネスプロセス

コース名 研修コースの内容	ビジネス戦略 / 製品企画： ソフトウェアビジネス計画
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>市場動向及び顧客要求を把握、分析し、ソフトウェア製品開発に向けた製品戦略策定及びビジネス計画(投資、損益モデルを含む)、製品開発計画、品質計画策定を行うために必要な知識および手法について修得する。</p> <p>企業戦略に関係するケースが多く、各企業内での実施を想定する。</p> <p>一般的な知識、手法の修得に1日間、企業戦略に関するケーススタディをワークショップ形式で1日間学習する。</p> <p>市場をセグメント化し、顧客の要求に対して何の製品のどの機能で対応するか、製品戦略の策定においてマーケットマネジメントの役割とプロセスを理解する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはチームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発レベル5、6を目指す者)
受講前提	「ソフトウェア開発プロセス基礎」、「マーケットマネジメントの基礎」コースを修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日間 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	ビジネス計画に関する実践的な知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チーム責任者として、担当するソフトウェア製品のビジネス計画を責任持って策定し遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握 - ソフトウェア製品戦略の策定 顧客セグメント分析、要求分析、SWOT分析、ソフトウェア製品戦略の策定、自社の企業戦略の理解 - 企画、計画の策定 顧客要求仕様の理解、ソフトウェア製品企画の策定、ソフトウェア製品企画の提案、ソフトウェア製品開発計画の策定、ソフトウェア製品の投資、損益モデルの理解

コース名	ビジネス戦略 / 製品企画: ビジネスプロセス
研修コースの内容	
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品開発に関連するビジネスプロセス、自社および他社の知的財産の取扱い、関連法規や各種の規制、標準などの知識と品質計画、リスク管理のプロセスについて実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>企業内における標準ガイドやビジネスプロセスに依存する為、各企業内での実施を想定する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはチームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「ソフトウェア開発プロセス基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 2日間(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェア製品開発に関連するビジネスプロセスについての実践的な知識を活用し、ソフトウェア製品開発責任者として、担当するソフトウェア製品のビジネス戦略立案、製品企画を遂行する事ができる。

対象スキル項目	関連する知識
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 監査 システム監査の基礎、システム監査の計画、システム監査の実施と報告の把握と活用
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 知的財産権 - ビジネス課題管理 課題の発見、解決策の検討、問題解決 - 関連法規に関する知識 関連法規の理解と遵守 - ソフトウェア製品戦略の策定 顧客セグメント分析、要求分析、SWOT分析、ソフトウェア製品戦略の策定、自社の企業戦略の理解 - 企画、計画の策定 顧客要求仕様の理解、ソフトウェア製品企画の策定、ソフトウェア製品企画の提案、ソフトウェア製品開発計画の策定、ソフトウェア製品の投資、損益モデルの理解
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - ソフトウェア開発プロセス ビジネスプロセス(IPDなど)における位置づけ、開発計画書の作成(サブプロセス、メジャメント、要員配置、ツール、成果物 など)、ソフトウェア開発に関連する規格およびモデル(ISO9000、CMMI など) - テスト実施計画書の作成
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用と実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践

製品アーキテクチャ（1コース）

- 製品アーキテクチャのケーススタディ

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	製品アーキテクチャのケーススタディ
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>様々な製品の既存のアーキテクチャを題材にして、市場要求のアブストラクション(製品化のための要求分析)、先進テクノロジーの適用可能性、アーキテクチャの将来性(汎用性、拡張性)などについて学習する</p> <p>当コースでは、アーキテクチャの概念、市場要求を製品アーキテクチャへ反映させる手法、先進テクノロジーの選択と適用のために必要な要件と制約、テクノロジープロトタイピングの有効性、アーキテクチャの将来性、汎用性、拡張性などについて、ケーススタディを通じて学習する。</p>
受講対象者	複数プロジェクトにおいてソフトウェア製品開発メンバーとして参画した経験があり、ソフトウェア製品のアーキテクチャに関する部分をリードすることとなる者(ソフトウェア開発のレベル3、4を目指す者)
受講前提	ITの基礎知識およびシステム開発の基礎知識を有し、プロジェクトの技術メンバーとして参画した経験があること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日間 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ソフトウェア製品のアーキテクチャ設計について理解し、ソフトウェア製品開発チーム責任者またはリーダーとして、アーキテクチャ設計、最新テクノロジーの知識を駆使し、アーキテクチャの設計を成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	- 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術
テクノロジー	- コンピュータシステムアーキテクチャおよび基盤技術の理解と活用 - モデリング技法の理解と活用 データモデリング技法の活用と実践、プロセスモデリング技法の活用と実践、パフォーマンスモデリング技法の活用と実践、プロトタイプ ング技法の活用と実践、ベンチマーキング技法の活用と実践

品質保証と管理（4コース）

- 品質マネジメント
- テスト計画 / 管理 / 評価
- 問題分析演習
- パフォーマンス計画 / 管理 / 評価

コース名 研修コースの内容	品質保証と管理：品質マネジメント
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、中規模以上あるいは複雑度の高いプロジェクトにおいて、プロジェクトの成果物、プロジェクトのマネジメントそのものに対する顧客の品質要求を満たすための品質マネジメントプロセスの適用技法に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、品質計画、品質保証、品質コントロール等の品質マネジメントプロセス、品質マネジメントツールと技法、品質マネジメントの成果物といった品質マネジメント全般について学習する。</p> <p>品質プロセスのISO9000およびCMMIなどとの関連について学習する。</p> <p>当コースは、講義形式による品質マネジメント理論の確認に加え、いかなる複雑度、難易度のプロジェクトにおいても常に顧客ニーズに合致した高い品質レベルを達成するための実践的な品質マネジメントをワークショップ形式で学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーまたはリーダーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発レベル3、4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日間（クラスルーム）
研修修了後のスキル修得目標	品質マネジメントプロセスの適用技法に関する知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チーム責任者またはリーダーとして、プロジェクト全工程における品質マネジメントを実施し、プロジェクトを成功裡に完了できる。

対象スキル項目	関連する知識
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - リスク管理基礎 リスクマネジメント計画策定、リスク識別、定性的リスク分析、定量的リスク分析、リスク対応計画の策定、リスク監視と管理 - ソフトウェア開発プロセス ビジネスプロセス(IPDなど)における位置づけ、開発計画書の作成(サブプロセス、メジャメント、要員配置、ツール、成果物 など)、ソフトウェア開発に関連する規格およびモデル(ISO9000、CMMI など) - 品質検査 デザインレビュー、コードレビュー、機能テスト、統合テスト、パフォーマンステスト、耐久性テスト、ユーザビリティテスト - テスト実施計画書の作成
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用、実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質検証 コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、傾向分析

コース名 研修コースの内容	品質保証と管理：テスト計画 / 管理 / 評価
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>本コースではソフトウェアの開発に伴うテストに関連するプロセスと手法について学習する。</p> <p>ソフトウェア開発プロセスの各フェーズにおけるテストの種別と目的について理解し、効果的なテスト計画の立案、テストの管理と評価および出荷後の品質予測の手法についての知識の修得を目的とする。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 3日間(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	テストに関する実践的な知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、テスト計画、テスト管理、評価のプロセスを責任を持って実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - 開発支援ツール 開発環境、各種アプリケーション開発ツール、構成管理ツール、デバッガ、シミュレータ等 - テスト実施計画書の作成 - 品質検査(ソフトウェアデベロッパント) デザインレビュー、コードレビュー、機能テスト、統合テスト、パフォーマンステスト、耐久性テスト、ユーザビリティテスト
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用、実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質検証 コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、傾向分析

コース名 研修コースの内容	品質保証と管理： 問題分析演習
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>本コースではソフトウェア開発、保守の過程で発生する問題の分析手法について実践的な知識の修得を目標とする。</p> <p>問題管理とレポートの事例を元にワークショップ形式での問題分析の演習を通じて問題の対応と評価、フィードバックのプロセスについて実践的な知識を修得する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3、4を目指す者)
受講前提	「プロジェクトマネジメント実践」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日間(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	問題分析に関する実践的な知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはメンバとして、問題の分析と対応、評価のプロセスを責任を持って実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
品質マネジメント	- 品質検証 コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、傾向分析
ソフトウェアエンジニアリング	- 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践
開発方式設計	- 開発支援ツール 開発環境、各種アプリケーション開発ツール、構成管理ツール、デバッガ、シミュレータ等

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	品質保証と管理：パフォーマンス計画 / 管理 / 評価
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品のパフォーマンス計画から管理、評価に関する実践的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、ソフトウェア製品に関わるパフォーマンス目標の設定方法、設計時に設定されたパフォーマンス目標を開発、テストのプロセスにおいて計測して適切に管理、評価する手法とパフォーマンス計画の策定について学習する。</p> <p>パフォーマンス評価とモデリングテクニックの再検討、パフォーマンス目標に到達するための様々な作業の影響と調整、技術的に複雑なシステムに対応するためのモデリングやシミュレーションの技法について学習する。</p> <p>実践的な知識を目標とするため、ワークショップを併用する事が望ましい。</p>
受講対象者	アーキテクチャの設計、構築、モデリングの基本的な知識があり、その知識を利用してシステムのアーキテクチャを設計、構築した経験を持つ者（ソフトウェア開発のレベル4を目指す者）
受講前提	「モデリングの基礎」コースを修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 3日間（クラスルーム）
研修修了後のスキル修得目標	パフォーマンスを向上させるアーキテクチャの実践について理解し、ソフトウェア製品開発チームリーダーとして、アーキテクチャ、アプリケーション、データサービス、ネットワーク、セキュリティ、システム運用などの全般的なアーキテクチャの知識を実践し、パフォーマンスを向上させるアーキテクチャを構築するプロジェクトを成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - モデリング技法の理解と活用 プロトタイピング技法の活用と実践、ベンチマーキング技法の活用と実践、パフォーマンスモデリング技法の活用と実践
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - 品質検査(ソフトウェア開発) デザインレビュー、コードレビュー、機能テスト、統合テスト、パフォーマンステスト、耐久性テスト、ユーザビリティテスト - テスト実施計画書の作成
品質マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> - 品質計画 ベネフィットコスト分析、ベンチマーキングの実施、フローチャートの活用、実践、品質に関するコスト管理 - 品質保証 品質計画、品質予測、品質監査、ツールと技術の活用と実践 - 品質検証 コントロールチャートの活用と実践、パレート図の活用と実践、統計サンプリングの実施、傾向分析
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 技術問題解決手法 技術問題解決手法の活用と実践

開発技術上級（2コース）

- インフォメーションデベロップメント
- 人間中心設計

コース名 研修コースの内容	開発技術上級：インフォメーションデベロップメント
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェアデベロップメント共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品開発の1つの切り口として製品マニュアルやヘルプ画面の内容、ダイアログ、メニュー、メッセージ、アイコン、などの情報コンテンツの開発(インフォメーションデベロップメント)について学習する。</p> <p>情報コンテンツの対象、開発プロセス、ツールなどについて学習する。</p> <p>ユーザに分かり易い情報提示の技術、テクニックなどを修得する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェアデベロップメントのレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発/インテグレーション方法論」コースを修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 1日間(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	インフォメーションデベロップメントに関する基礎的な知識を活用し、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するソフトウェア製品のインフォメーションデベロップメントを実施できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 人間中心設計 - アクセシビリティ(ソフトウェア開発) 各種システムのアクセシビリティ機能、各国毎のガイドラインおよび規制
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - インフォメーション開発 製品情報の設計、開発
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - 品質検査(ソフトウェア開発) デザインレビュー、コードレビュー、機能テスト、統合テスト、パフォーマンステスト、耐久性テスト、ユーザビリティテスト

コース名 研修コースの内容	開発技術上級：人間中心設計
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>ソフトウェア製品の要求定義、仕様策定のアプローチとして人間中心設計の手法によるユーザの利用状況の分析、要求仕様の定義、ユーザビリティの配慮、評価基準の策定と評価の活動に必要な知識を修得し、事例紹介とワークショップを通じて具体的なプロセスについて実践的な知識を修得する。</p> <p>人間中心設計(UCD: User Centered Design)の具体的な数値目標、検証方法を決めて検証を実施し、結果を評価し、製品の仕様へのフィードバックを行う為の知識を修得する。</p> <p>ソフトウェア製品のアクセシビリティ対応についての遵守すべき法規と必要となる技術についての知識を修得する。</p> <p>人間中心設計(UCD)の概要についての解説と事例紹介をそれぞれ1日間と0.5日間の講義をおこない、0.5日間のワークショップにより実践的な知識を修得する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発レベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 2日間(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	要求定義、仕様策定に関する実践的な知識を駆使し、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、担当するソフトウェア製品の仕様策定の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 人間中心設計 - アクセシビリティ(ソフトウェア開発) 各種システムのアクセシビリティ機能、各国毎のガイドラインおよび規制
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 技術検証手法の活用と実践 プロトタイピング、シミュレーション、モデリング
開発方式設計	<ul style="list-style-type: none"> - 品質検査(ソフトウェア開発) デザインレビュー、コードレビュー、機能テスト、統合テスト、パフォーマンステスト、耐久性テスト、ユーザビリティテスト

ソフトウェア開発メントの リーダシップ (1コース)

- ソフトウェア開発メントのリーダシップ

コース名 研修コースの内容	ソフトウェア開発のリーダーシップ：ソフトウェア開発のリーダーシップ
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして必要な、あらゆるプロジェクトの成功要因である目標の設定、チーム形成、チーム内やチーム外とのコミュニケーション、プロジェクト実施項目の作成、推進、管理、動機づけに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で必要なリーダーシップ、自身に対する動機づけ、チーム形成を通じたチームメンバーに対する動機づけ、対人スキル、確執の管理と合意形成について、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「リーダーシップ基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	リーダーシップを発揮し、ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはソフトウェア製品開発チーム責任者として、プロジェクトを成功裡に遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
リーダーシップ	- リーダシップ リーダーシップの基本や原則の把握と実践、チームワークとコミュニケーションの実践、プロジェクト目標の設定、プロジェクトの推進、プロジェクトの実行、プロジェクト管理、開発チームメンバーの連携、開発チームメンバーの動機づけと達成感の提供

ソフトウェア開発の コミュニケーション (1コース)

- ソフトウェア開発のコミュニケーション

コース名 研修コースの内容	ソフトウェア開発のコミュニケーション：ソフトウェア開発のコミュニケーション
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして必要な、あらゆるプロジェクトの成功要因であるプロジェクト関係者との効果的かつ効率的なコミュニケーションに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で必要な2Wayコミュニケーション、情報の伝達、情報の処理について、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「コミュニケーション基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	顧客の意志決定キーパーソンやプロジェクトメンバー等と効果的かつ効率的なコミュニケーションを図り、ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはソフトウェア製品開発チーム責任者として、プロジェクトを成功裡に遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> - コミュニケーション(2Way) 対話およびインタビューの実施、意思疎通、コミュニケーション手法の活用と実践、効果的な話し方、聞き方の実践 - コミュニケーション(情報伝達) プレゼンテーション技術の活用と実践、公式または非公式文書の作成、文書表現および表現力の活用と実践、メディア選択、説得技法の活用と実践 - コミュニケーション(情報処理) 状況対応能力の育成と実践、状況理解力の活用と実践、ミーティング運営技術の活用と実践

ソフトウェア開発メントの ネゴシエーション（1コース）

- ソフトウェア開発メントのネゴシエーション

コース名 研修コースの内容	ソフトウェア開発のネゴシエーション：ソフトウェア開発のネゴシエーション
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、プロジェクトにおけるあらゆる状況、場面でのネゴシエーションに関する実践的なスキルの修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、ソフトウェア製品開発チームメンバーとして必要な、中規模以上または複雑なプロジェクトを推進していく上で発生するあらゆる状況、場面における利害関係者とのネゴシエーションに関して、ネゴシエーションのプロセスを複数のフェーズに分け、想定される問題点を理解し、交渉相手との解決策を作成するプロセスについて、ロールプレイを取り入れてワークショップ形式で実践的に学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「ネゴシエーション基礎」を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	ワークショップ
期間	標準日数 3日(クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	顧客の意志決定キーパーソンやプロジェクトメンバーなどとの関係において、交渉相手との対立や葛藤を効果的に処理し、ソフトウェア製品開発チームリーダーまたはソフトウェア製品開発チーム責任者として、折衝が難しい交渉相手に対しても継続的な信頼関係を維持することで、プロジェクトを成功裡に遂行できる。

対象スキル項目	関連する知識
ネゴシエーション	- ネゴシエーション 交渉プロセスの把握と実践、効果的な交渉技法の活用と実践、信頼関係の確立、目標の設定、共通利益、論理的思考の実施、問題解決手法の活用と実践

最新技術動向 (1コース)

- 最新技術動向

<div style="text-align: right;">コース名</div> <div style="text-align: left;">研修コースの内容</div>	最新技術動向：最新技術動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくITサービスを取りまく最新の技術動向を理解し、実際のビジネスで応用するための知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、国内外のIT市場規模と動向、現状と将来のIT技術、先進テクノロジー、国際標準、プラットフォーム、システム管理基盤、データベース、ネットワーク、分散コンピューティングシステム、セキュリティに関わる要素技術動向、アプリケーションに関わる技術動向、ビジネス特許に関わる技術動向、次世代のeビジネスとその発展などを学習する。</p> <p>当コースは、必要に応じた任意のテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発の責任者、プロジェクトリーダー、プロジェクトメンバとして、諸技術に関する知識を更新する必要がある者
受講前提	IT技術に関する基礎知識を持ち、プロジェクトマネジメントの実務経験、実績を有すること
研修方法	講義
期間	標準日数 1日間（クラスルーム）
研修修了後のスキル修得目標	最新の技術に関する情報を把握し、実際のプロジェクトにその技術知識を効果的に適用することでプロジェクトを成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握 - 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握 - Webアプリケーション技術 HTML、サーブレット、EJB、J2EE、JSP、JSF、XML、XMLを基盤とした各種マークアップランゲージ、Webサービス(SOA、SOAP、WSDL、UDI、WS - Security 等)

最新ビジネス動向（1コース）

- 最新ビジネス動向

コース名 研修コースの内容	最新ビジネス動向：最新ビジネス動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくビジネスの最新動向に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、主要な業界の経営課題や最新動向、トピックス、国内外のIT市場の動向、主要な技術動向等のテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p>
受講対象者	プロジェクト責任者、プロジェクトリーダー、プロジェクトメンバーとして、担当するソフトウェア製品に関わる顧客の経営環境等を把握するために、ビジネス動向に関する知識を更新する必要がある者
受講前提	「インダストリー業務知識の基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、またはeラーニング
期間	標準日数 0.5日(クラスルーム)、または 標準時間 3時間(eラーニング 1日 6時間×0.5日間)
研修修了後の スキル修得目標	顧客を取りまく短中期のビジネス動向を把握し、その知識を効果的に活用することにより、顧客の経営課題を的確に理解することができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none">- 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握- 関連法規に関する知識 関連法規の理解と遵守- 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術

コミュニティ活動(1コース)

- コミュニティ活動

<div style="text-align: right;">コース名</div> 研修コースの内容	コミュニティ活動
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発者共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>コミュニティ活動は、いわゆる研修とは異なり、社内組織上のラインにとらわれずに、プロフェッショナル同士が自らのスキルを切磋琢磨し、後進育成にも貢献していく社内、社外での諸活動をいう。コミュニティ活動には、社外のものとしては学会や各種団体(任意も含めて)があり、社内のものとしては社内プロフェッショナル認定制度などで認定を受けたなどの者からなる枠組みがある。</p> <p>ハイレベルのスキルを持つ人材は、研修という枠組みで教えられるという段階を超え、コミュニティ活動を通し、他のハイレベルのプロフェッショナルとの情報交換やディスカッションを通じて研鑽を重ねる。</p> <p>後進育成においても、ハイレベルのスキルに基づく論文発表や講演を通じた貢献を図る。また、特に社内のコミュニティ活動を通しては、人事、教育訓練制度の設計、構築、実行をリードし、現場のプロの立場でビジネス戦略と結びついた人材育成戦略の実現に貢献する。</p> <p>製品開発に於いては関連する標準化団体へ参画し、製品技術を標準に反映させる活動が重要になる場合が多い。</p>
受講対象者	
受講前提	
研修方法	
期間	
研修修了後の スキル修得目標	

ソフトウェア開発

研修コースの内容

< 専門分野別選択 >

要素技術（3コース）

（ ）内は対応する専門分野

- 基本ソフトの要素技術(基本ソフト)
- デバイスドライバ開発ワークショップ(基本ソフト)
- ミドルソフトの要素技術(ミドルソフト)

コース名 研修コースの内容	要素技術：基本ソフトの要素技術
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の後続となる「要素技術」コース群の一つとして、プラットフォームの構成要素となる製品の性能を決めるアーキテクチャと製品に実装された要素技術に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースではTRON、Sinbian、PIC(Programmable Interface Controller)、などの組み込みシステム用のハードウェアやオペレーティングシステムの知識およびその開発環境について学習する</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発レベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニングまたは講義
期間	標準日数 2日間 (クラスルーム)
研修修了後のスキル修得目標	ハードウェアのアーキテクチャとオペレーティングシステムの実装についての知識を活用し、ソフトウェア製品開発メンバーとして担当する領域における最新技術動向を踏まえた適用技術の選定と技術的問題解決を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - オペレーティングシステムの基礎 メインフレーム OS、オフコン OS、UNIX、WINDOWS、Linux、組み込み機器 OS - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握 - コンピュータシステムアーキテクチャおよび基盤技術の理解と活用
ハードウェア適合設計	<ul style="list-style-type: none"> - 基本ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(OS のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の OS のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術

コース名 研修コースの内容	要素技術： デバイスドライバ開発ワークショップ
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、基本ソフトの構成と機能を理解し、デバイスドライバの開発体験を通じて基本ソフト開発に必要な実践的な技術を修得することを目的とする。</p> <p>当コースでは代表的なOS (Windows、Linuxなど)のデバイスドライバの開発を行い、基本ソフトの低レベルのインターフェイスに関わるプログラミング技法の理解とテスト、デバッグの手法について学習する。</p> <p>前半1日間で概説とワークショップのケースガイドを講義で行い、後半ワークショップで実際のデバイスドライバの開発、テストを行う。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「プログラミング技法」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ
期間	標準日数 5日間 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	デバイスドライバ開発の実践的知識を活用し、ソフトウェア製品開発メンバーとして、デバイスドライバの開発、テストと技術的問題解決を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - オペレーティングシステムの基礎 メインフレーム OS、オフコン OS、UNIX、WINDOWS、Linux、組み込み機器 OS - コンピュータシステムアーキテクチャおよび基盤技術の理解と活用
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - プログラム実装 コーディング、テスト工程、手順、手法の理解と実践 - テスト技法 テストケース設計、仕様決定、テスト環境設定、管理、テストデータ準備、テストツールの活用 - 内部設計 機能設計、インターフェイス設計、内部データ設計、サブコンポーネントの識別、役割定義、サブコンポーネント間の関係定義、内部設計書の作成 - デバッグ技法 デバッグツールの活用と実践
ハードウェア適合設計	<ul style="list-style-type: none"> - 基本ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(OS のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の OS のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術

コース名 研修コースの内容	要素技術：ミドルソフトの要素技術
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の後続となる「要素技術」コース群の一つとして、ミドルソフトの構成要素となる製品の性能を決めるアーキテクチャと製品に実装された要素技術に関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、代表的なミドルウェア製品とシステムソフトウェア製品、データベース製品、システム管理製品、トランザクション処理、分散処理、並列処理、メッセージング、などのシステムソフトウェアやミドルウェアに実装された要素技術についての最新の技術動向などを学習する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフト、ミドルソフト、あるいは応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 5日間(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	ミドルソフトの実装に関する実践的な知識を活用し、ミドルソフト製品開発チームメンバーとして、担当する領域における最新技術動向を踏まえた適用技術の選定と技術的問題解決を実践することができる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握
プラットフォーム非依存設計	<ul style="list-style-type: none"> - 担当ミドルウェアソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術

インダストリ業務知識の基礎 (1コース)

()内は対応する専門分野

- インダストリ業務知識の基礎(応用ソフト)

コース名 研修コースの内容	インダストリ業務知識の基礎： インダストリ業務知識の基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、現在のインダストリや業務に関する知識、そして現在使用されている、または今後使用されると考えられるアプリケーションに関する基礎的な知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、営業や会計、人事など多くのインダストリで共通に必要とされる業務や、各インダストリに特徴的な業務の中で代表的なもの、およびそれらの業務の中で使用されるアプリケーションの種類などを学習する。基礎知識の修得に主眼をおくため、各インダストリ固有の業務知識などについては概要を述べるのみで深く掘り下げることはしない。受講者は当コースにおいて基礎知識を学習した上で、さらに個別の業務に関する専門性の高い知識を学習する必要がある。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「IT基本1」および「IT基本2」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング
期間	標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日間)
研修修了後のスキル修得目標	インダストリに関する知識や、企業における一般的な業務に関する知識、また業務アプリケーションに関する知識を駆使し、応用ソフト製品開発チームメンバーとして、情報システムと顧客業務の関係、情報システムの有効性、担当する成果物と情報システムの関係などを的確に理解し、担当するインダストリに関する会話が業務上支障なくスムーズに行うことができる。また上位者の指導の下、担当する成果物に対し責任を持って作成することができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握 - ソフトウェア製品戦略の策定 顧客セグメント分析、要求分析、SWOT分析、ソフトウェア製品戦略の策定、自社の企業戦略の理解
業務適用設計	<ul style="list-style-type: none"> - 担当応用ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術

インダストリアプリケーション動向

(1コース)

()内は対応する専門分野

- インダストリアプリケーション動向(応用ソフト)

コース名 研修コースの内容	インダストリアプリケーションの動向： インダストリアプリケーションの動向
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、日々変化していくインダストリアプリケーションに関する知識を最新に保つために、各インダストリにおける最新の動向や、現在注目を集めているアプリケーション、ソリューションに関する知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、対象とするインダストリ、またはアプリケーション、ソリューションのテーマ毎に提供され、受講者は、自らのスキルの維持、向上を図るために定期的または必要に応じてテーマを選択し受講する。</p> <p>当コースは、eラーニング形式による提供も可能であるが、講義形式によってアプリケーションの実演などを行うことが望ましい。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「インダストリ業務知識の基礎」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義 または eラーニング、
期間	標準日数 2日(クラスルーム)、 または標準時間 12時間 (eラーニング 1日 6時間×2日間)
研修修了後の スキル修得目標	必要とするインダストリに関する知識や、新たな情報システムの形態、最新アプリケーション、ソリューションに関する動向を把握し、実際のプロジェクトにその技術知識を効果的に適用することでプロジェクトを成功裡に実施することができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - ソフトウェア製品戦略の策定 顧客セグメント分析、要求分析、SWOT分析、ソフトウェア製品戦略の策定、自社の企業戦略の理解 - 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握 - 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術
業務適用設計	<ul style="list-style-type: none"> - 担当応用ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術 - データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 最適データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング選定、データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング機能、制約事項の理解、データベース、ミドルウェア、分散コンピューティングを利用したアプリケーションデザインの実践

業務パッケージ基礎 (1コース)

()内は対応する専門分野

- 業務パッケージ基礎(応用ソフト)

コース名 研修コースの内容	業務パッケージ基礎：業務パッケージ基礎
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、「システム開発基礎」コース群の後続コースとして、業務パッケージを活用した適用業務システムを開発していく上で背景となる、業務パッケージに関する知識、業務パッケージに実装されている様々な技術や考え方などの基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、現在様々な業種で用いられている業務パッケージや盛り込まれている考え方や原理、仕組み、構成、メリットやデメリット、使用法、適用範囲および適用するための注意点などを学習する。</p> <p>当コースは、分野、製品、あるいはテーマ別にコースを設け、受講者は必要に応じて受講するコースを選択する</p> <p>業務パッケージの技術や製品はバージョンアップ、新規ソフトの発売などにより陳腐化するため、当コース修了後も随時必要とされる知識の更新を行う必要がある。</p> <p>当コースは、eラーニング形式による提供も可能であるが、講義形式やワークショップ形式による業務パッケージの実演などを取り入れられることが望ましい。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル3を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義、ワークショップ、またはeラーニング、
期間	標準日数 3日(クラスルーム)、または標準時間 18時間 (eラーニング 1日 6時間×3日間)
研修修了後の スキル修得目標	業務パッケージを用いた適用業務システム開発において、業務パッケージに実装されている技術やその利点、欠点などを理解し、応用ソフト製品開発チームメンバーとして、開発の各局面において業務パッケージの目的、特徴などを適切に説明できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握
業務適用設計	<ul style="list-style-type: none"> - 担当応用ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術 - データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 最適データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング選定、データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング機能、制約事項の理解 データベース、ミドルウェア、分散コンピューティングを利用したアプリケーションデザインの実践
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> - 開発手法 開発手法の選定、開発手法の活用と実践、ウォーターフォール型、RAD (Rapid Application Development) 型、スパイラル型、業務パッケージ固有の開発手法

要素技術上級（4コース）

（ ）内は対応する専門分野

- 基本ソフトの要素技術上級(基本ソフト)
- ミドルソフトの要素技術上級(ミドルソフト)
- 業務パッケージ製品別(応用ソフト)
- セキュリティの設計上級(ミドルソフト / 応用ソフト)

コース名 研修コースの内容	要素技術上級：基本ソフトの要素技術上級
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>担当する基本ソフトの技術、原理、機能などの詳細について実践的な知識を修得する事を目的とする。</p> <p>開発対象となる基本ソフトの原理と機能、サービスと API など外部インターフェイスに加え、内部構造とデータフロー、内部インターフェイスについての詳細について学習し、機能の拡張や新機能の設計、開発などに必要な技術と知識を修得する。</p> <p>特定の製品の内部仕様に関する研修については企業内で実施される事を前提とする</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の基本ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「要素技術基礎」コース群を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 3日間 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	基本ソフト製品の設計に関する実践的な知識を駆使し、基本ソフト開発チーム責任者またはリーダーとして、担当する基本ソフト製品設計の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握 - コンピュータシステムアーキテクチャおよび基盤技術の理解と活用
ハードウェア適合設計	<ul style="list-style-type: none"> - 基本ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(OSのモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々のOSのアーキテクチャ)、最新技術、先端技術

コース名 研修コースの内容	要素技術上級：ミドルソフトの要素技術上級
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>担当するミドルソフトの技術、原理、機能などの詳細について実践的な知識を修得する事を目的とする。</p> <p>開発対象となるミドルソフトの原理と機能、サービスと API など外部インターフェイスに加え、内部構造とデータフロー、内部インターフェイスについての詳細について学習し、機能の拡張や新機能の設計、開発などに必要な知識を修得する。</p> <p>ミドルソフトの変更要因となりうる外部環境、特にWebアプリケーション技術の最新情報にも注目する。</p> <p>特定の製品の内部仕様に関する研修については企業内で実施される事を前提とする</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数のミドルソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発レベル4、5を目指す者)
受講前提	「システム開発基礎」コース群を修了していること、又は同等の知識を有していること
研修方法	講義
期間	標準日数 3日間(クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	ミドルウェアに関する高度で実践的な知識を駆使し、ミドルソフト開発チーム責任者またはリーダーとして、担当するミドルソフト製品設計の成果物を責任持って作成できる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 業界、技術動向 国際標準、業界標準、先端技術、注目技術
テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> - 最新技術動向 最新ハードウェア技術動向の把握、最新ミドルウェア技術動向の把握、最新プラットフォーム技術動向の把握、最新ネットワーク技術動向の把握、最新データベース技術動向の把握、最新セキュリティ技術動向の把握、最新システム管理技術動向の把握 -ミドルウェア技術 Web、CGiの仕組み、JSP、EJBの把握、活用 - Webアプリケーション技術 HTML、サーブレット、EJB、J2EE、JSP、JSF、XML、XMLを基盤とした各種マークアップランゲージ、Webサービス(SOA、SOAP、WSDL、UDDI、WS - Security 等)
プラットフォーム非依存設計	<ul style="list-style-type: none"> - 担当ミドルウェアソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術

コース名 研修コースの内容	要素技術上級：業務パッケージ製品別
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>当コースは、応用ソフトに関する要素技術の上位コースとして、ERP、SCM、CRMなどの領域で現在一般に市販され使用されている個別の業務パッケージ製品に関して、製品提供元および関連各社が提供する研修サービスを活用して適用業務システムの設計、構築、導入に係る製品固有の知識の修得を目的とする。</p> <p>当コースでは、主要な業務パッケージ製品を用いて、製品固有のメソッドロジ、開発言語、各種ツール、API、パフォーマンスチューニング手法などを主に学習する。</p> <p>当コースは、活用する研修サービスによりその研修方法が異なるが、一般的には講義と演習による。また、各製品単位で個別に研修サービスが提供されるため、受講者は必要に応じて受講する製品と関連する研修コースを選択する。</p>
受講対象者	ソフトウェア製品開発チームメンバーとして、複数の応用ソフトの製品開発プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「システム設計」、「システム構築」および「システム運用/保守」のコース群を修得していること、または同等の知識を有していること
研修方法	パッケージ製品提供元および関連各社の研修内容に準ずる
期間	パッケージ製品提供元および関連各社の研修内容に準ずる
研修修了後の スキル修得目標	パッケージ製品固有の知識を駆使し、応用ソフト製品開発チーム責任者またはリーダーとして、業務パッケージ製品を活用した開発プロジェクトにおいて、担当するプロジェクトに関する一連の成果物に対し責任を持ってこれを作成することができる。

対象スキル項目	関連する知識
分析・要求定義	<ul style="list-style-type: none"> - 市場動向及び他社動向の把握 情報の収集、情報の分析、市場動向及び他社動向の把握
業務適用設計	<ul style="list-style-type: none"> - 担当応用ソフトに関する深い知識 理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ)、内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ)、最新技術、先端技術 - データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計 最適データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング選定、データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング機能、制約事項の理解、データベース、ミドルウェア、分散コンピューティングを利用したアプリケーションデザインの実践

コース名 研修コースの内容	要素技術上級：セキュリティの設計上級
講座分類	入門講座 基礎講座 上級講座 特別講座
対象専門分野	ソフトウェア開発共通 基本ソフト ミドルソフト 応用ソフト
コース概要	<p>セキュリティ対策の観点からのソフトウェア製品への作りこみに関する基本方針(ポリシー、コンセプト)を決定し、推進するために事例を通して学習する。</p> <p>当コースでは、講義形式、ワークショップ形式で、セキュリティの設計において、特に強固なセキュリティが要求される場合や、複雑なシステム統合や特殊環境における考慮点について理解を深め、セキュリティ対策の採用を実践的に学習する。</p> <p>検討する事例としては、インターネット接続において外部からの脅威の危険性が大きい情報システム、複雑で高度なアクセスコントロールが要求される情報システム、複雑で高度な物理的セキュリティが要求される情報システム、高度のプライバシー管理が要求される情報システム、高度の機密性が要求される情報システム、セキュリティ上の脆弱性が企業に多大な損害を与える情報システム、連続稼働のために変更、保守、障害回復に高度な設計が必要な情報システムなどを取り上げる。</p>
受講対象者	セキュリティ関連ソフトウェア製品の開発チームリーダーまたは技術チームメンバーとして、複数プロジェクトに参加した経験を持つ者(ソフトウェア開発(専門分野:応用ソフト)のレベル4、5を目指す者)
受講前提	「要素技術基礎：セキュリティの要素技術」を修了していること、または同等の知識を有していること
研修方法	eラーニング、講義
期間	前半：標準時間 30時間 (eラーニング 1日6時間×5日間)、後半：標準日数 5日間 (クラスルーム)
研修修了後の スキル修得目標	セキュリティに関する幅広く実践的な知識を活用し、ソフトウェア製品開発チーム責任者またはチームリーダーとして、製品の設計をリードできる。

対象スキル項目	関連する知識
ソフトウェアエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none">- セキュリティシステムの実装、検査 セキュリティ製品、ツールの選定、導入、セキュリティシステムの開発、セキュリティ技術の実装- セキュリティとプライバシー セキュリティ対策(機密保護、改ざん防止対応、不正侵入、コンピュータウィルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対策、ソーシャルエンジニアリング)、プライバシー保護、リスク管理、ガイドラインと関連法規